Sustainable Event Guideline Ver.2.0

–サステナビリティに配慮したイベントを実現していくために–

INDEX

Chapter 1 はじめに 03
ガイドライン策定の目的 04
サステナビリティとイベント 05
ガイドラインの利用方法 08

Chapter 2 サステナビリティに配慮したイベントのつくり方 09
サステナビリティに配慮したイベントとは？ 10
サステナビリティに配慮したイベントの企画・制作フロー 12

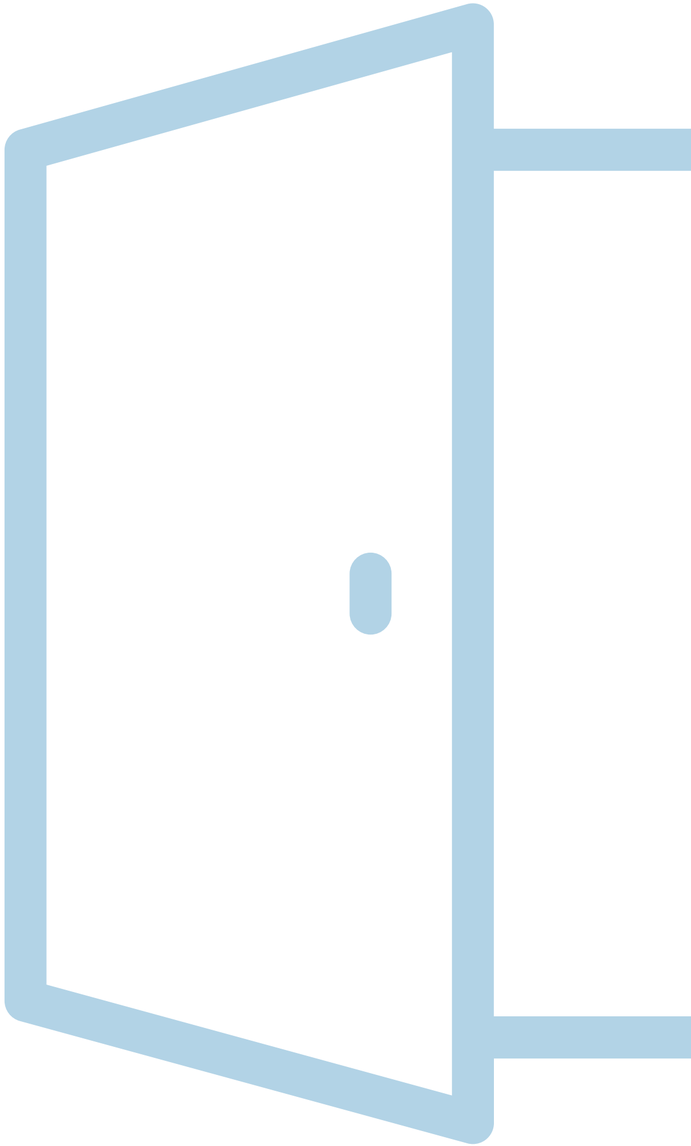
Chapter 3 サステナビリティに配慮したイベント（環境編） 17
イベントにおける環境負荷 18
サステナビリティに配慮したイベントのためのチェックリスト（環境編） 20

Chapter 4 サステナビリティに配慮したイベント（DEI編） 24
イベントにおけるDEI 25
サステナビリティに配慮したイベントのためのチェックリスト（DEI編） 28

Appendix 32

Sustainable Event Guideline

Chapter 1 はじめに



ガイドライン策定の目的

世界中の様々な分野で、サステナビリティに対する関心が高まり、取り組みも加速、
いまや、**取り組むことでプラスになるというより、取り組むのが当たり前の時代**を迎えています。
取り組まなければ、ブランドイメージを棄損したり、取引先として選ばれなくなるなど、ビジネスとしてのリスクを抱え、
またサステナビリティに取り組んでも、実態に即して発信しなければ、正当に評価されません。

このような潮流の中、社会的に大きな影響を与えるイベント業界においても、サステナビリティへの配慮が求められています。

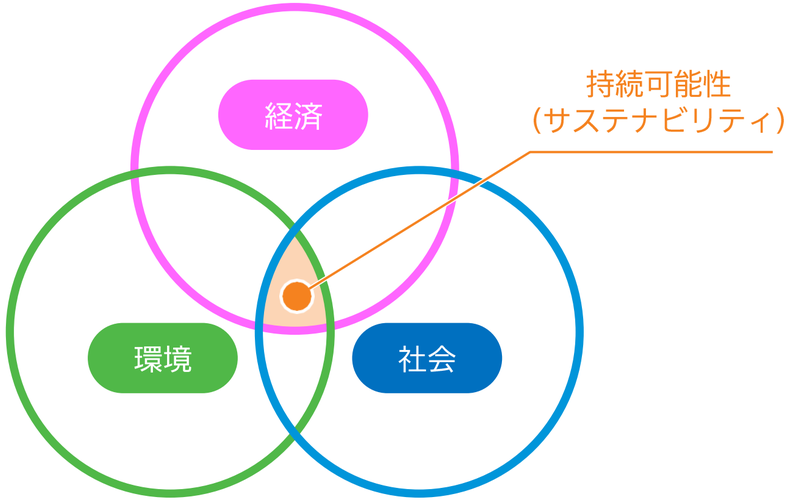
本ガイドラインでは、従来のイベントを変革し、サステナビリティに配慮したイベントを実現していくために、
イベントの作り手となる、主催者・出展者・協賛社・企画者・制作者に向けた、
サステナビリティに配慮したイベントのつくり方
サステナビリティに配慮したイベントをつくるために活用するチェックリスト
を掲載しています。

電通ライブは、本ガイドラインをきっかけに、イベント業界でのサステナビリティ促進に貢献していきます。

サステナビリティとイベント

イベント視点で考えるサステナビリティとは？

組織や企業の安定を目的として経済的収益を高めるだけではなく、
地域社会に対して収益を還元したり、経済波及効果をもたらせるなど、
経済的影響を与えることで好循環を創出することが期待されています。



脱炭素社会の実現に向けて、廃棄物を減らしたり、
エネルギー利用を抑えたり、再生可能エネルギーを
使用するなど、環境負荷低減に努めることが重要です。

国籍・年齢・性別・障がいの有無などを問わず受容し、
一人ひとりの人権を尊重しながら、労働者や地域に対して
プラスの影響をもたらすことが重要です。

図：イベント視点で捉えたトリプルボトムラインと持続可能性（サステナビリティ）の関係

Our Common Future（United Nations, 1987）および
日本工業規格 JIS Q 14001：2015 (ISO14001：2015)を基に作成

サステナブルとは、「持続する（sustain）」と「できる（able）」を組み合わせた言葉で「持続可能な」という意味があります。
2015年9月に国連にて、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である**Sustainable Development Goals(SDGs＝持続可能な開発目標)**が採択されたことにより、世界でも持続可能性(サステナビリティ)への関心が高まり、取り組みが加速しています。

その取り組みは、自らの関心だけでなく、左図のようにトリプルボトムラインの観点から**環境・社会・経済**の3側面を総合的に高めていくことが大切になります。

日本でも、政府が2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする**カーボンニュートラル**を目指す宣言していますが、**サステナブルな社会の実現には、あらゆる人が協力、連携しなければ成し遂げられず、小さなことからでも、全ての人が自分事化して取り組むことが重要です。**

サステナビリティとイベント

サステナビリティに取り組む上での留意点

「カーボンネガティブ」とは、CO_2排出量より吸収量のほうが多いという状態。
具体的にはどういうことなのかはっきりしません。
この水を飲むとCO_2を吸収することに貢献できる、との誤解を招きそうです。

取水地である森がCO_2を吸収していることを根拠に
「カーボンネガティブ」を訴求するのは、拡大解釈であり、誤解を招きます。

ウォッシュが懸念される例

実態が伴っていないのに、取り組んでいるように見せかける「グリーンウォッシュ」「SDGsウォッシュ」*や、人権への不十分な配慮は、コミュニケーションの問題にとどまらず、生活者からの信頼を損ない、ESG投融資先としての企業の魅力を著しく毀損する可能性があり、注意が必要です。

*ウォッシュについての詳しい説明は、P34 をご参照ください。

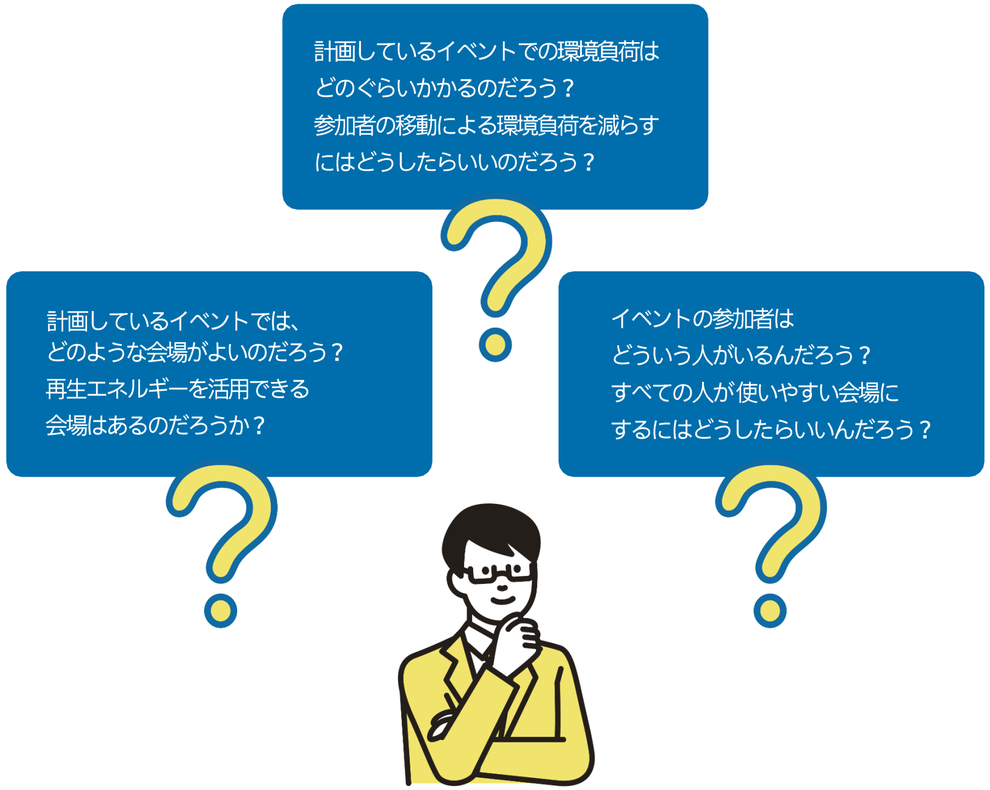
ウォッシュを回避するためのポイント

① 根拠がない、情報源が不確かな表現を避ける
② 事実よりも誇張した表現を避ける
③ 言葉の意味が規定しにくいあいまいな表現を避ける
④ 事実と関係性の低いビジュアルを用いない
⑤ 製品、サービスの全体像との整合性を確認する
⑥ 条件付きの場合は、明確に示す
⑦ 耐久性や廃棄についての情報（マテリアルサイクル・サーマルサイクル・焼却/埋立など）、ラベルを正しくつける
⑧ 正しい選択をするために必要な情報を隠さない
⑨ 載せきれない情報にも簡単にアクセスできるように配慮する

参考：電通「サステナビリティ・コミュニケーションガイド」
https://www.dentsu.co.jp/sustainability/sdgs_action/pdf/sustainability_communication_guide.pdf

サステナビリティとイベント

サステナビリティに配慮したイベントは、考えて１歩踏み出すことが重要



イベントは、**来場者にリアルな体験価値を提供できる、非常に重要なコミュニケーション手法**です。それを**サステナブルに進化させることで、更なる共感を促し、開催することの意義や効果を最大化できる**可能性を秘めています。

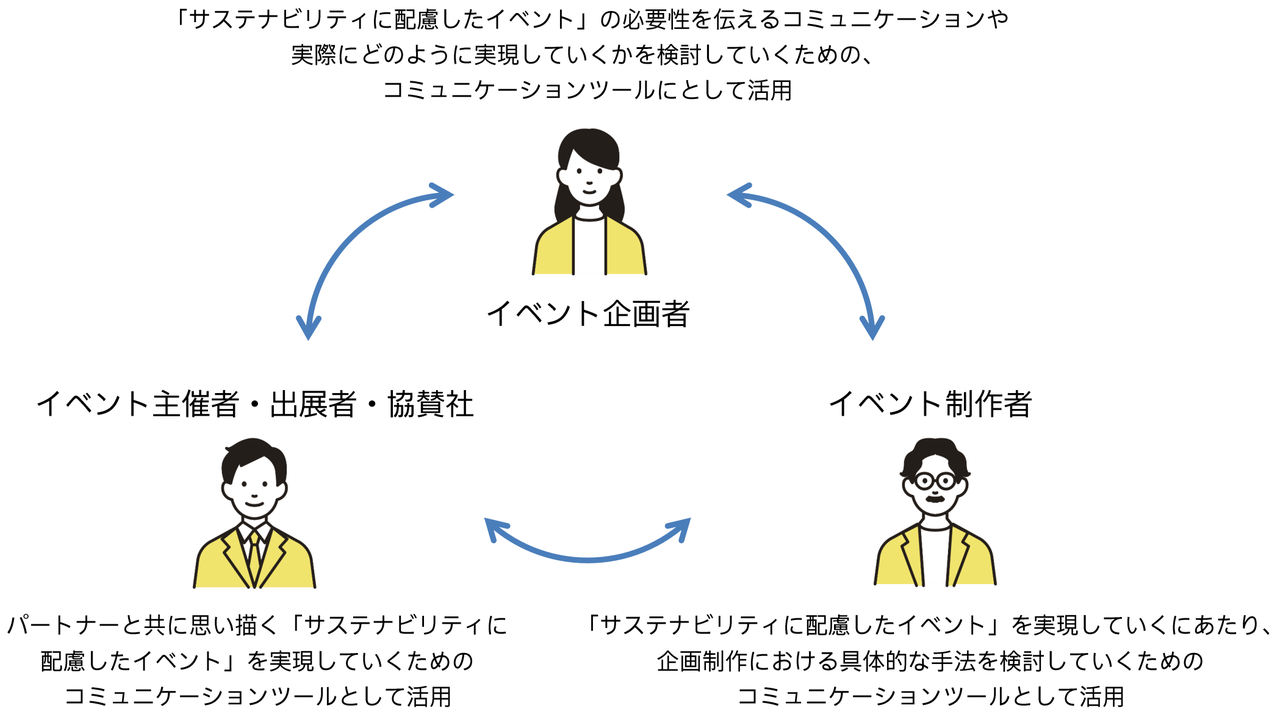
サステナビリティに配慮したイベントをつくっていく上では、取り組まねばならないことが山積している、と考えこんでしまうケースがありますが、**初めから大きく考えすぎるのではなく**、例えば、イベント会場選定では、

「参加者の属性上、移動による環境負荷が少ない場所か？」
「再生可能エネルギーを活用できる設備があるか？」
「イベント会場内は、杖や車いすでも簡単に移動できるか？」　など、

一部分からでも、どうすればサステナブルになるか考え実行することが、サステナビリティに配慮したイベントをつくっていくための第１歩として非常に重要です。

ガイドラインの利用方法

「サステナビリティに配慮したイベント」を実現するため、イベントの作り手側のコミュニケーションツールとして活用



イベントをつくっていく上では、主催者・出展者・協賛社・企画者・制作者・会場・来場者・地域など、多くの関係者が関わりますが、そうした中で実施する「サステナビリティに配慮したイベント」に正解はありません。

本ガイドラインは、**イベントの作り手となる、主催者・出展者・協賛社・企画者・制作者**それぞれが、サステナビリティについて考え、自分たちの思い描く、**サステナビリティに配慮したイベントをつくっていくためのコミュニケーションツール**として活用頂けるものになっています。

Sustainable Event Guideline

Chapter 2 サステナビリティに配慮したイベントのつくり方

サステナビリティに配慮したイベントとは？

取り組むべきテーマや領域は１つではない

サステナビリティに配慮したイベント

サステナビリティに配慮したイベントをつくるために取り組むべき領域の例

	環境	DEI	安全衛生
テーマ	環境	DEI	安全衛生
領域例	・組織内の管理/教育体制 ・廃棄物削減 ・エネルギー （制作、会場、輸送/移動） ・調達 ・水利用 ・地域社会連携　など	・組織内の管理/教育体制 ・ユニバーサルデザイン ・アクセシビリティ ・情報保障 ・オペレーション ・ジェンダー ・福祉　など	・組織内の管理/教育体制 ・ワークライフバランス ・ディーセントワーク ・アスベスト ・メンタルヘルス ・感染症対策 ・優良企業制度認定　など
	詳しくはP.19を参照	詳しくはP.27を参照	

サステナビリティに配慮したイベントに正解はなく、形は様々です。従来型のイベントは、スクラップ&ビルドを基本とし、また多くのヒトとモノが移動することもあり、サステナビリティ（持続可能性）に配慮したイベントと言うと、まず初めに思い浮かぶのが、CO_2排出量を削減を目的とした環境配慮型イベントです。

CO_2排出量を削減し、**環境**への負荷を減らすことは、サステナビリティ実現のために非常に重要ですが、それだけでなく、イベントに関わる人の**DEI※**に配慮したり、感染症対策を含めた**安全衛生**を徹底したり、イベントには様々な領域が関連しています。本ガイドラインは、様々なテーマや領域ごとに、サステナビリティに配慮すべきポイントについてまとめています。

※DEIとは「ダイバーシティ（多様性）」「エクイティ（公平性）」「インクルージョン（包括性）」の頭文字からなる略称です。
※今後も、社会的状況を踏まえた上での定期的な見直しや、環境・DEI以外の視点も加えるなど、継続的にアップデートを行っていく予定です。

サステナビリティに配慮したイベントとは？

世界の潮流・事例

音楽イベントでの取り組み例

＜エネルギー視点＞
- ●ライブ会場にソーラーパネルを設置
- ●エネルギー効率の高い機器/照明/電力の使用
- ●機材配送はクリーンな燃料を利用
- ●ライブ中の観客の動きでエネルギーを生成できるように会場に発電効果のあるキネティック・フロアを設置
- ●航空機の利用を最小限に抑える
- ●来場者にCO_2排出量が少ない輸送手段を推奨する呼びかけ
- ●CO_2削減に寄与する移動手段での来場をアプリで証明した来場者に割引サービスを適用
- ●チケット１枚売れると１本植樹

＜調達視点＞
- ●全ての会場で石油由来のプラスチック製品の提供中止
- ●来場者のための水分補給ステーション設置
- ●地元の食料調達

＜廃棄物視点＞
- ●ステージを再利用可能なマテリアルで組み立てる
- ●食品廃棄物の堆肥化、余剰食料の寄付　など

サステナビリティやサーキュラー・エコノミーの実践においては、欧米を中心として、海外で多くの事例が出てきています。

例えば、サステナビリティ先進国における音楽イベントでは、出演アーティスト自身もサステナブルに対しての意識が非常に高く、自身だけでなく、**会場や来場者など、関係者一体となって、左記のように様々な取り組みを実践しています**。ワールドツアー開催地でも、そうした視点でのニーズが高まっています。

また、既にヨーロッパでは、イベント協賛社の活動がサステナビリティに配慮されているかどうか、消費者に問われる時代を迎えています。

日本のイベント業界においても、こうした**グローバルスタンダードを見習っていく必要があります**し、政府が2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする**カーボンニュートラル**を目指す宣言をしたことも踏まえ、国内における消費者の目も非常に厳しくなっています。

だからこそ、サステナビリティに配慮して計画を立てることが重要です。

サステナビリティに配慮したイベントの企画・制作フロー

イベントを一過性のものとして捉えず、イベントの作り手となる、主催者・出展者・協賛社・企画者・制作者それぞれが、
サステナビリティについて考え、アクションを繰り返し、継続的改善を図ることが重要になります。
最終的に、イベント参加者に対して、日常の行動を変えていくきっかけを提供することまで想定できると、なお望ましいでしょう。

STEP 1

準備

社内の情報を整理する

自社で取り組んでいる
サステナビリティの活動を
取りまとめて把握する。

STEP 2

体制構築

適切なパートナー決定し、
体制を構築する

計画しているイベントに適した
パートナーを検討し、チームを構築する。
（リーダーシップを持つことが大切）

STEP 3

企画・制作

チェックリストを活用し、
企画・制作を行う

本ガイドラインのチェックリストを
活用して、サステナブル化のために
取り組むべき目標項目を決める。

STEP 4

評価

チェックリストを活用し、
イベント実施後に評価・分析を行う

チェックリストを見直しながら、
実施したイベントがレガシーとして何を残し、
次のイベントにどう繋げていくか評価・分析。

継続的改善を図る（アクション）

サステナビリティに配慮したイベントの企画・制作フロー

STEP 1 準備
社内の情報を整理する

イベント主催者・出展者・協賛社・企画者・制作者は、サステナビリティに関する社の方針や、
自社内で実施/検討されている**サステナビリティ活動について、社内ヒアリング**を行います。
そして、ヒアリングした内容をまとめ、サステナビリティの領域ごとに整理し、体制構築時にチームへ共有します。

社内情報の整理～共有

①自社のサステナビリティに関する方針を確認する

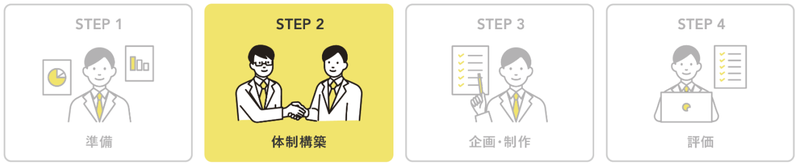
②自社で実施している、またはこれから実施予定であるサステナビリティに関する活動内容を確認する

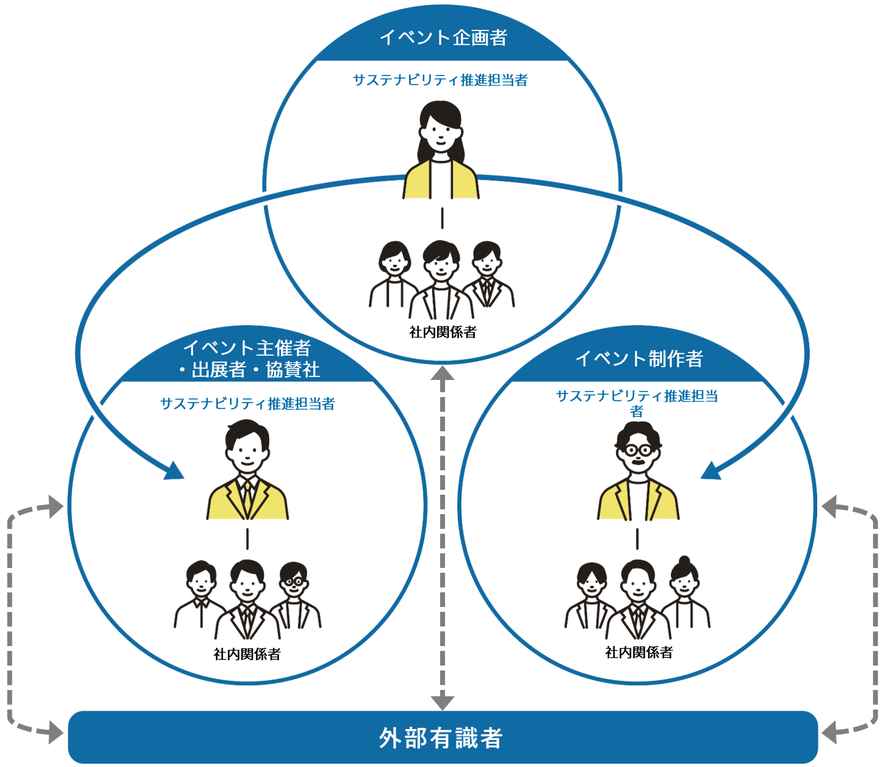
③自社の方針と活動内容をまとめたドキュメントを作成する

④共有可能なものに関して、体制構築時にチームへ共有する

サステナビリティに配慮したイベントの企画・制作フロー

STEP 2 体制構築
適切なパートナー決定し、体制を構築する





イベント主催者・出展者・協賛社・企画者・制作者は、計画しているイベントにおいて適切なパートナーを検討し、決定します。
その際、サステナビリティに配慮したイベントの計画・評価・改善などを促す役割を担う、**サステナビリティ推進担当者を選任**します。

各社のサステナビリティ推進担当者は、**協力しながら、イベントの企画・制作におけるサステナビリティの実現に向けた取り組みに関する事項を決定**し、その内容や詳細を社内の関係者にも周知、連携していきます。

また必要に応じて、**外部有識者にご協力を依頼**し、サステナビリティ推進担当者と連携して、進めることも検討します。

サステナビリティに配慮したイベントの企画・制作フロー

STEP 3 企画・制作
チェックリストを活用し、企画・制作を行う

本ガイドラインに掲載しているチェックリストを活用し、「企画・設計デザイン」「施工」「運営」のイベントの制作段階別に実施を目指す項目をチェックをして、項目に沿った具体的な取り組みを検討し、イベントをつくっていきます。

チェックリストの活用方法

- ・・・　実施の難易度が低く、努力し続けることで達成できる項目
- ・・・　実施の難易度が高く、他社や専門業者の協力も得て達成できる項目

フェーズ	対象領域								効果	責任者	チェック欄		チェック項目	実施する具体的な取り組み	次回実施に向けた改善点、引き継ぎたい点
	組織内管理・教育	廃棄物削減	エネルギー 制作	エネルギー 会場	エネルギー 輸送/移動	調達	水利用	地域社会連携			目標	評価			
企画・設計デザイン		●	●		●				★★				会議は極力リモート化することで、移動や会議資料等による環境負荷を低減する		
		●	●						★★				会議に用いる資料はデジタル化（ペーパーレス化）し、廃棄物を減らす		
	●								★★★				各社・各担当が連携し、目標を共有できる体制を構築する		
				●					★				イベント実施の適切な実施時期、期間を選定 ex)冷暖房設備の過度な使用を避ける、必要最低限の期間とする		
		●		●	●				★★★				環境に配慮した会場選定を行う ex)公共交通機関でアクセスできる会場を選定しCO2排出量削減 / 既存会場の活用により新規造作物を削減		
		●	●			●			★★				来場者数の把握、歩留の設定を適正化することで、ノベルティ等配布物・販売物の無駄をなくす		
		●	●						★★				来場者配布物、チケット等、制作物のデジタル代替を行う		
		●	●						★				制作過程においてエネルギー使用・廃棄物を削減し、環境負荷を低減する		
		●	●			●			★★				システム材/リース品/保管品/リサイクル品/アップサイクル品を活用した設計とする		
			●			●			★				石油由来のプラスチック素材の使用を避ける		
	●								★				スタッフ・関係者に対して、サステナビリティに配慮する目的や留意点を事前に共有する（研修の実施）		
								●	★				イベント告知等を通して企業としてのサステナビリティに関する取り組みを来場者へアピールする		
						●			★				サステナビリティに配慮した商品、サービスを展開するサプライヤーと共に計画する		
				●		●			★★				グリーン電力（太陽光発電・風力発電等の「再生可能エネルギー」）を使用する		
				●					★★★				エネルギー使用量・CO2排出量の算出および低減の検討を行い、どうしても排出してしまう分をオフセットする		
		●	●			●			★★				制作物の発注前に行う事前検証、仮組、サンプル品確認などをデジタル化する		
						●			★				環境ラベル等のサステナビリティに関する認証を取得しているマテリアル、機材を戦略的に取り入れる 参考：https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/ecolabel/touroku.html		
			●			●			★				制作物のマテリアルとして、リサイクル可能な材料、商品を導入する		
						●			★				制作物における揮発性有機化合物含有量を確認する		
			●			●			★				印刷物の制作において、環境に配慮したマテリアル、原料を使用する		
		●	●			●			★★				長期使用が可能な耐久性を考慮した設計を行う		
		●	●			●			★★				廃棄物のアップサイクルを検討する / リサイクル率の高い産業廃棄物処理業者に相談する		

Action ❶
チェックリストを確認しながら、
実施を目指す項目にチェックをします。

Action ❷
チェックを入れた項目に対して、具体的に取り組む
内容を「実施する具体的な取り組み」欄に記載します。

※チェックリストは今後継続的にアップデートを行っていく予定です。

サステナビリティに配慮したイベントの企画・制作フロー

STEP 4 評価
イベント実施後に評価・分析する

イベント実施後、改めてチェックリストを確認し、実施したベントに対する評価を行います。
実施した内容や実施できなかった内容などを振り返り、チェックリストに記載。次回のイベントの企画・制作時に活用することで、
サステナビリティに配慮したイベントの知見を蓄積しながら、イベントの継続的改善を図っていきます。

チェックリストの活用方法

- ・・・　実施の難易度が低く、努力し続けることで達成できる項目
- ・・・　実施の難易度が高く、他社や専門業者の協力も得て達成できる項目

フェーズ	対象領域								効果	責任者	チェック欄		チェック項目	実施する具体的な取り組み	次回実施に向けた改善点、引き継ぎたい点
	組織内管理・教育	廃棄物削減	エネルギー 制作	エネルギー 会場	エネルギー 輸送/移動	調達	水利用	地域社会渉外			目標	達成			
企画・設計デザイン		●	●		●				★★				議は極力リモート化することで、移動や会議資料等による環境負荷を低減する		
		●	●						★★				議に用いる資料はデジタル化（ペーパーレス化）し、廃棄物を減らす		
	●								★★★				社・各担当が連携し、目標を共有できる体制を構築する		
				●					★				ベント実施の適切な実施時期、期間を選定 ハ機器設備の過度な使用を避ける、必要最低限の期間とする		
		●		●	●				★★★				境に配慮した会場選定を行う ハ公共交通機関でアクセスできる会場を選定しCO2排出量削減／既存会場の活用により新規造作物を削減		
		●	●			●			★★				場者数の把握、歩留の設定を適正化することで、ノベルティ等配布物・販売物の無駄をなくす		
		●	●						★★				場者配布物、チケット等、制作物のデジタル代替を行う		
		●	●						★				制作過程においてエネルギー使用・廃棄物を削減し、環境負荷を低減する		
		●	●			●			★★				ステム材/リース品/保管品/リサイクル品/アップサイクル品を活用した設計とする		
			●			●			★				石油由来のプラスチック素材の使用を避ける		
	●								★				タッフ・関係者に対して、サステナビリティに配慮する目的や留意点を事前に共有する（研修の実施）		
								●	★				ベント告知等を通して企業としてのサステナビリティに関する取り組みを来場者へアピールする		
						●			★				ステナビリティに配慮した商品、サービスを展開するサプライヤーと共に計画する		
				●		●			★★				リーン電力（太陽光発電・風力発電等の「再生可能エネルギー」）を使用する		
				●					★★★				ネルギー使用量・CO2排出量の算出および低減の検討を行い、どうしても排出してしまう分をオフセットする		
		●	●			●			★★				制作物の発注前に行う事前検証、仮組、サンプル品確認などをデジタル化する		
						●			★				境ラベル等のサステナビリティに関する認証を取得しているマテリアル、施材を積極的に取り入れる 考：https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/ecolabel/touroku.html		
			●			●			★				制作物のマテリアルとして、リサイクル可能な材料、商品を導入する		
						●			★				制作物における爆発性有機化合物含有量を確認する		
			●			●			★				展物の制作において、環境に配慮したマテリアル、原料を使用する		
		●	●			●			★★				期使用が可能な耐久性を考慮した設計を行う		
		●	●										展物のアップサイクルを検討する／リサイクル率の高い産業廃棄物処理業者に相談する		

Action ❸
イベント実施後、チェックした項目が
達成できた場合、達成欄にチェックを入れます。

Action ❹
振り返りの内容を「次回実施に向けた改善点、
引き継ぎたい点」欄に記載します。

※チェックリストは今後継続的にアップデートを行っていく予定です。

Sustainable Event Guideline

Chapter 3 サステナビリティに配慮したイベント（環境編）

イベントにおける環境負荷

イベントの環境負荷は想像以上に大きい

1000名規模のイベント1回あたりの環境負荷

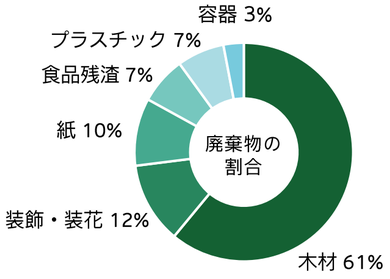
（算出条件：都内開催 1泊2日 全国からの移動や宿泊、飲食を伴う懇親イベント）

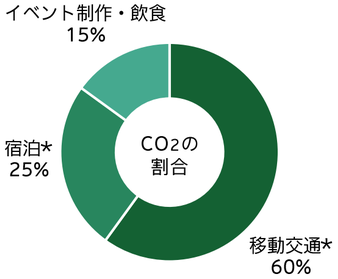
2,300kg
1人あたり2.3kgの廃棄物

100t-CO_2
二酸化炭素相当量(CO_2)を排出

÷

7,100本
1年間に吸収する量に相当





*移動交通、宿泊には
関係者・参加者が含まれています。

サステナブルイベントネットワークの提供情報を基に作成
https://sustainable-event-network.com/

最も想像しやすい環境負荷は、長期間かけて企画・制作したイベントの多くが、**イベント終了後に大量の廃棄物を出し、それを処理するために多くのCO_2が排出される**ということです。

それだけでなく、**参加者や関係者の移動や宿泊、資機材の調達や輸送、エネルギー消費なども、イベントにおいて高い環境負荷を与えます。**

こうした環境負荷を低減していくため、イベントのサプライチェーン全体を通して確認すべきポイントを、チェックリスト（環境編）*にまとめました。　*詳しくはP.20を参照

イベントにおける環境負荷

配慮すべき領域や取り組み例

【組織内の管理/教育体制】

外部有識者含め、組織やチームが一体となり、目的共有や知識向上に努めましょう。

●各社/各担当が連携し、目標を共有できる体制を構築する

●従業員/スタッフ/関係者に対して、サステナビリティに関する研修や情報共有を実施する

●ISO20121やISO14001など、マネジメントシステム(国際標準規格)の導入

【廃棄物削減】

廃棄物量を把握し、その削減方法を検討・実行しましょう。

●環境配慮や廃棄物削減に取り組んでいる会場を選定する

●来場者配布物、チケット等、制作物のデジタル代替を行う

●簡易梱包を採用することで、梱包材の廃棄物を低減する

【エネルギー(制作、会場、輸送/移動)】

エネルギー使用量を把握し、CO．排出量の低減方法を検討・実行しましょう。

●グリーン電力(太陽光発電・風力発電等の再生可能エネルギー)を使用した電源供給

●CO．排出量の少ない輸送/移動手段の選択や移動経路の設定

●環境に配慮した会場選定を行う

【調達】

サステナビリティに配慮されたマテリアルやサービスを調達、利用しましょう。

●システム材/リース品/保管品/リサイクル品/アップサイクル品を活用した設計とする

●制作物のマテリアルとして、リサイクル可能な材料、商品を導入する

●環境ラベル等のサステナビリティに関する認証を取得しているマテリアル、機材の導入

【水利用】

水使用量を把握し、節水に努めるとともに、飲料水に起因する廃棄物を低減しましょう。

●節水または水循環型の機器導入や、雨水をトイレに利用する

●ペットボトルや紙コップの使用削減のため、給水スポットを設置する

●マイボトル持参や、ペットボトルの持ち込み制限など、参加者にアクションを促す

【地域社会連携】

ハード・ソフトとも地産地消を心掛け、環境配慮＋αで地域に貢献しましょう。

●資機材だけでなくケータリングや弁当調達において地産地消を心掛け、輸送距離を短縮

●地域の伝統工芸や技術を取り入れることで人の移動を抑え、同時に地域活性化を図る

●地域資源であるユニークベニューをイベント会場として採用する

サステナビリティに配慮したイベントのためのチェックリスト（環境編）

環境配慮型のイベントをつくるためのチェックリスト

サステナビリティに配慮したイベントのためのチェックリスト（環境編）はこちらのリンクより、ご利用いただけます。

チェックリストの利用方法を記載しています

[利用方法]
①：イベント企画開始時に、以下凡例も参照しながら、実施を目指すチェック項目の「目標」欄にチェックを付ける。
：実施の難易度が低く、イベント主催者と企画者/制作者が努力し続けることで達成できる項目
：実施の難易度が高く、イベント主催者と企画者/制作者だけでなく他社や専門業者の協力も得て達成できる項目
②：①でチェックした項目を目標とし、「実施する具体的な取り組み」欄に実施予定の内容を記載。制作フェーズへ進む。
③：イベント終了時に、達成できたチェック項目については、「達成」欄にチェックを入れ、実施できたことやできなかったこと、次回に向けた改善点等を「次回実施に向けた改善点、引き継ぎたい点」欄に記載する。
④：次回のイベント実施時には、チェック欄と「実施する具体的な取り組み」・「次回実施に向けた改善点、引き継ぎたい点」を基にあらたに実施を目指すチェック項目の見直しを行う。

環境負荷を低減するために
実施すべき項目を記載しています

項目を実施した場合の
効果度を記載しています

イベントの制作段階を記載しています

項目の細かな対象領域を記載しています

フェーズ	対象領域								効果	責任者	チェック欄		チェック項目	実施する具体的な取り組み	次回実施に向けた改善点、引き継ぎたい点
	組織内管理・教育	廃棄物削減	エネルギー 制作	エネルギー 会場	エネルギー 輸送/移動	調達	水利用	地域社会連携			目標	達成			
企画・設計デザイン		●	●		●				★★				会議は極力リモート化することで、移動や会議資料等による環境負荷を低減する		
		●	●						★★				会議に用いる資料はデジタル化（ペーパーレス化）し、廃棄物を減らす		
	●								★★★				各社・各担当が連携し、目標を共有できる体制を構築する		
				●					★				イベント実施の適切な実施時期、期間を選定 ex)冷暖房設備の過度な使用を避ける、必要最低限の期間とする		
		●		●	●				★★★				環境に配慮した会場選定を行う ex)公共交通機関でアクセスできる会場を選定しCO2排出量削減 / 既存会場の活用により新規造作物を削減		
		●	●			●			★★				来場者数の把握、歩留の設定を適正化することで、ノベルティ等配布物・販売物の無駄をなくす		
		●	●						★★				来場者配布物、チケット等、制作物のデジタル代替を行う		
		●	●						★				制作過程においてエネルギー使用・廃棄物を削減し、環境負荷を低減する		
		●	●			●			★★				システム材/リース品/保管品/リサイクル品/アップサイクル品を活用した設計とする		
			●			●			★				石油由来のプラスチック素材の使用を避ける		
	●								★				スタッフ・関係者に対して、サステナビリティに配慮する目的や留意点を事前に共有する（研修の実施）		
								●	★				イベント告知等を通して企業としてのサステナビリティに関する取り組みを来場者へアピールする		
						●			★				サステナビリティに配慮した商品、サービスを展開するサプライヤーと共に計画する		
				●		●			★★				グリーン電力（太陽光発電・風力発電等の「再生可能エネルギー」）を使用する		
				●					★★★				エネルギー使用量・CO2排出量の算出および低減の検討を行い、どうしても排出してしまう分をオフセットする		
		●	●			●			★★				制作物の発注前に行う事前検証、仮組、サンプル品確認などをデジタル化する		
						●			★				環境ラベル等のサステナビリティに関する認証を取得しているマテリアル、機材を戦略的に取り入れる 参考：https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/ecolabel/touroku.html		
			●			●			★				制作物のマテリアルとして、リサイクル可能な材料、商品を導入する		
						●			★				制作物における揮発性有機化合物含有量を確認する		
			●			●			★				印刷物の制作において、環境に配慮したマテリアル、原料を使用する		
		●	●			●			★★				長期使用が可能な耐久性を考慮した設計を行う		
		●	●			●			★★				廃棄物のアップサイクルを検討する / リサイクル率の高い産業廃棄物処理業者に相談する		

チェック項目を実施するにあたり、
責任者を記載いただきます

企画・制作段階に記入いただく欄になります

サステナビリティに配慮したイベントのためのチェックリスト（環境編）

チェックリスト活用フロー① 検討項目の洗い出し

サンプルケース

今考えているイベントでサステナビリティに配慮した取り組みをやった方がいいとは思うけど、何から始めたらいいんだろう？

イベント主催者・出展者・協賛社

主催者さんの会社では環境への取り組みを多くやられているので環境配慮に注力するのはどうですか？

イベント企画者

そうですね。でも環境配慮ってどうやればいいのでしょう？

イベント主催者・出展者・協賛社

この環境に配慮したイベントをつくるためのチェックリストを使ってまずはどのレベルまで環境に配慮したいなどを考えていきましょう。

イベント企画者

うーん。よくわからないけど一般的によくやられている水準ぐらいは実施したいかな。

イベント主催者・出展者・協賛社

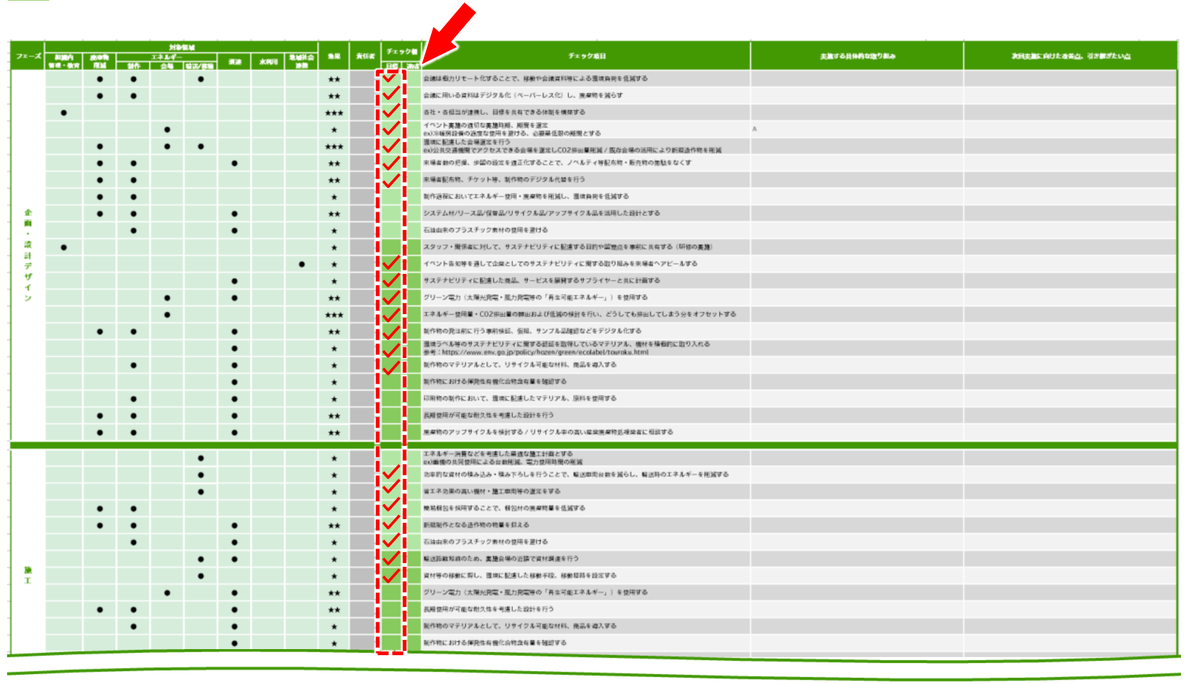
それでしたらまずは、チェックリスト「実施の難易度が低く、努力し続けることで達成できる項目」のすべて達成することを目標に、難易度の高いものも、いくつか取り入れてみましょう。

イベント企画者

“取り組むべき項目をコミュニケーションをとりながらチェック”

・・・　実施の難易度が低く、努力し続けることで達成できる項目

・・・　実施の難易度が高く、他社や専門業者の協力も得て達成できる項目



フェーズ	対象領域								難易	責任者	チェック欄	チェック項目	実施する具体的な取り組み	対応実施に向けた本音は、引き継がれる点
	開催内容・運営	参加者用品	エネルギー 制作	エネルギー 会場	エネルギー 輸送/運搬	運送	来場者	各関係会社			計画 / 実施			
企画・設計デザイン		●	●		●				★★		✓	会議は極力リモートにすることで、移動や会議資料等による環境負荷を低減する		
		●	●						★★		✓	会議に用いる資料はデジタル化（ペーパーレス化）し、廃棄物を減らす		
	●								★★★		✓	各社・各部署が連携し、目標を共有できる体制を構築する		
				●					★		✓	イベント実施の適切な実施時期、期間を選定 ex)来場施設側の改修や設備を避ける、必要最低限の期間とする	A	
		●		●	●				★★★		✓	環境に配慮した会場選定を行う ex)公共交通機関でアクセスできる会場を選定しCO2排出量削減／既存会場の活用により新規造作物を削減		
		●	●			●			★★		✓	来場者動線の把握、歩道の設定を適正化することで、ノベルティ等配布物・販売物の無駄をなくす		
		●	●						★★		✓	来場者配布物、チケット等、製作物のデジタル代替を行う		
		●	●						★			製作過程においてエネルギー使用・廃棄物を削減し、環境負荷を低減する		
		●	●			●			★★			システム材/リース品/保管品/リサイクル品/アップサイクル品を活用した設計とする		
			●			●			★			石油由来のプラスチック素材の使用を避ける		
	●								★			スタッフ・関係者に対して、サステナビリティに配慮する目的や認識点を事前に共有する（研修の実施）		
								●	★		✓	イベント各知等を通じて企画としてのサステナビリティに関する取り組みを来場者へアピールする		
						●			★		✓	サステナビリティに配慮した商品、サービスを展開するサプライヤーと共に計画する		
				●		●			★★		✓	グリーン電力（太陽光発電・風力発電等の「再生可能エネルギー」）を使用する		
				●					★★★		✓	エネルギー使用量・CO2排出量の排出および低減の検討を行い、どうしても排出してしまう分をオフセットする		
		●	●			●			★★		✓	製作物の発注前に行う事前検証、仮組、サンプル品確認などをデジタル化する		
						●			★		✓	環境ラベル等のサステナビリティに関する認証を取得しているマテリアル、機材を積極的に取り入れる 参考：https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/ecolabel/naiyou.html		
			●			●			★		✓	製作物のマテリアルとして、リサイクル／可能な材料、商品を導入する		
						●			★			製作物における保険性有機化合物含有量を確認する		
			●			●			★			印刷物の製作において、環境に配慮したマテリアル、原料を使用する		
		●	●			●			★★			長期使用が可能な耐久性を考慮した設計を行う		
		●	●			●			★★			廃棄物のアップサイクルを検討する／リサイクル率の高い廃棄物処理業者に相談する		
施工					●				★			エネルギー消費などを考慮した構造や施工計画とする ex)車両の共同使用による出動削減、電力使用時間の削減		
					●				★		✓	効率的な資材の積み込み・積み下ろしを行うことで、輸送回数や台数を減らし、輸送時のエネルギーを削減する		
					●				★		✓	省エネ効果の高い機材・施工期間等の選定をする		
		●	●						★		✓	廃棄物処理を採用することで、移設時の廃棄物量を低減する		
		●	●			●			★★		✓	新規製作となる造作物の物量を抑える		
			●			●			★		✓	石油由来のプラスチック素材の使用を避ける		
					●	●			★		✓	輸送距離短縮のため、実施会場の近隣で資材調達を行う		
					●				★		✓	資材等の移動に際し、環境に配慮した移動手段、移動経路を設定する		
				●		●			★★			グリーン電力（太陽光発電・風力発電等の「再生可能エネルギー」）を使用する		
		●	●			●			★★			長期使用が可能な耐久性を考慮した設計を行う		
			●			●			★			製作物のマテリアルとして、リサイクル／可能な材料、商品を導入する		
						●			★			製作物における保険性有機化合物含有量を確認する		

サステナビリティに配慮したイベントのためのチェックリスト（環境編）

チェックリスト活用フロー② 具体的な取り組みの検討

サンプルケース

目標は決まったけど例えば、施工の「輸送距離短縮のための会場近隣での調達」は具体的にどう取り組めばいいのだろう？

イベント主催者・出展者・協賛社

会場近辺でサステナビリティに配慮したサービスを展開している会社があるので相談してみましょう。

イベント企画者

今回の会場の近くに工場を持っているので、資材の移動コストを減らせるの共にリサイクル可能な資材も提供可能ですよ。

イベント制作者

今回はデザイン的にこんな形にしたいのですが、ご提案いただいた資材でも可能でしょうか？

イベント主催者・出展者・協賛社

このデザインであれば別の資材の方が良いですね。こちらの資材でも環境への負荷は軽減可能です。

イベント制作者

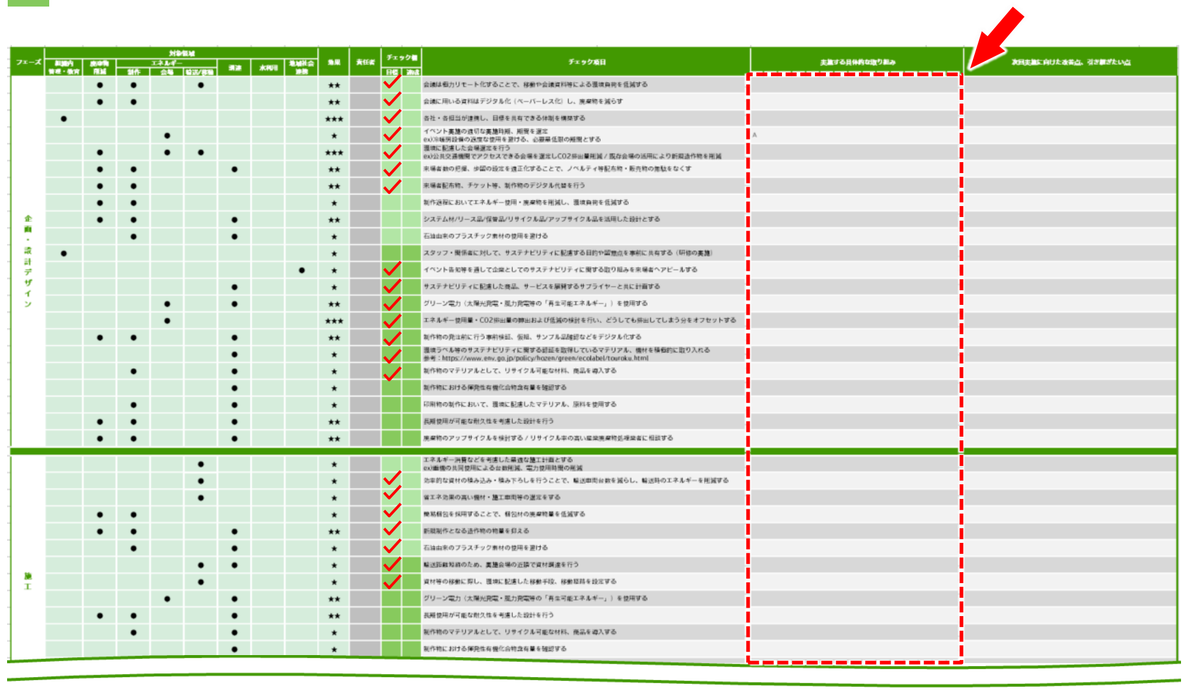
それでしたらデザインを担保したまま環境に配慮できる、こちらの資材でお願いします。

イベント主催者・出展者・協賛社

“「目標」欄にチェックを付けた項目の具体的な取り組み内容を決定してリストに記載”

・・・　実施の難易度が低く、努力し続けることで達成できる項目

・・・　実施の難易度が高く、他社や専門業者の協力も得て達成できる項目



フェーズ	対象領域									指標	責任者	チェック欄		チェック項目	具体的な取り組み	資料提出に向けた準備・引き継がれる点
	開催内容・使用	参加者用品	エネルギー 制作	エネルギー 会場	エネルギー 輸送/運搬	運送	廃棄物	食品飲料 映像				目標	決定			
企画・設計デザイン		●	●		●					★★			✓	会議は極力リモートにすることで、移動や会議資料等による環境負荷を低減する		
		●	●							★★			✓	会議に用いる資料はデジタル化（ペーパーレス化）し、廃棄物を減らす		
	●									★★★			✓	各社・各部署が連携し、目標を共有できる体制を構築する		
				●						★			✓	イベント実施の適切な実施時期、期間を選定 ex)来場所設備の改修な空間を避ける、必要最低限の期間とする	A	
		●		●	●					★★★			✓	環境に配慮した会場選定を行う ex)公共交通機関でアクセスできる会場を選定しCO2排出量削減／既存会場の活用により新規造作物を削減		
		●	●			●				★★			✓	来場者動の把握、歩図の設定を適正化することで、ノベルティ等配布物・販売物の無駄をなくす		
		●	●							★★			✓	来場者配布物、チケット等、製作物のデジタル代替を行う		
		●	●							★				制作過程においてエネルギー使用・廃棄物を削減し、環境負荷を低減する		
		●	●			●				★★				システム材/リース品/保管品/リサイクル品/アップサイクル品を活用した設計とする		
			●			●				★				石油由来のプラスチック素材の使用を避ける		
	●									★				スタッフ・関係者に対して、サステナビリティに配慮する目的や認物品を事前に共有する（研修の実施）		
									●	★			✓	イベント各知等を通して企業としてのサステナビリティに関する取り組みを来場者へアピールする		
						●				★			✓	サステナビリティに配慮した商品、サービスを展開するサプライヤーと共に計画する		
				●		●				★★			✓	グリーン電力（太陽光発電・風力発電等の「再生可能エネルギー」）を使用する		
				●						★★★			✓	エネルギー使用量・CO2排出量の排出および低減の検討を行い、どうしても排出してしまう分をオフセットする		
		●	●			●				★★			✓	製作物の発注前に行う事前検証、仮組、サンプル品確認などをデジタル化する		
						●				★			✓	環境ラベル等のサステナビリティに関する認証を取得しているマテリアル、機材を積極的に取り入れる 参考：https://www.env.go.jp/policy/hozen/green-kyodai/kyoukai.html		
			●			●				★			✓	制作物のマテリアルとして、リサイクル可能な材料、商品を導入する		
						●				★				制作物における保険性有機化合物含有量を確認する		
			●			●				★				印刷物の製作において、環境に配慮したマテリアル、顔料を使用する		
		●	●			●				★★				長期使用が可能な耐久性を考慮した設計を行う		
		●	●			●				★★				廃棄物のアップサイクルを検討する／リサイクル率の高い廃棄物処理業者に相談する		
施工					●					★				エネルギー消費などを考慮した構造な施工計画とする ex)車両の共同使用による排出量削減、電力使用時間の削減		
					●					★			✓	効率的な資材の積み込み・積み下ろしを行うことで、輸送期間日数を減らし、輸送時のエネルギーを削減する		
					●					★			✓	省エネ効果の高い機材・施工期間等の選定をする		
		●	●							★			✓	解体材を採用することで、材料材の廃棄物量を低減する		
		●	●			●				★★			✓	新規製作となる造作物の物量を抑える		
			●			●				★			✓	石油由来のプラスチック素材の使用を避ける		
					●	●				★			✓	輸送距離短縮のため、実施会場の近隣で資材調達を行う		
					●					★			✓	資材等の移動に際し、環境に配慮した移動手段、移動経路を設定する		
				●		●				★★				グリーン電力（太陽光発電・風力発電等の「再生可能エネルギー」）を使用する		
		●	●			●				★★				長期使用が可能な耐久性を考慮した設計を行う		
			●			●				★				制作物のマテリアルとして、リサイクル可能な材料、商品を導入する		
						●				★				制作物における保険性有機化合物含有量を確認する		

サステナビリティに配慮したイベントのためのチェックリスト（環境編）

チェックリスト活用フロー③ 実施後の振り返り

サンプルケース

イベントお疲れ様でした！今回のイベントは、サステナビリティの配慮に挑戦できて、とても良いものになりました。

イベント主催者・出展者・協賛社

こちらこそありがとうございました！チェックリストをもとに今回の内容を忘れないうちに振り返りましょう。

イベント企画者

目標はかなり達成できたのですが、スケジュールの兼ね合いなどもあり制作での無駄が少し出てしまいましたね。

イベント主催者・出展者・協賛社

そうですね。次回はもう少し早めから動き出して、スケジュールも確保しながら進めましょう。

イベント企画者

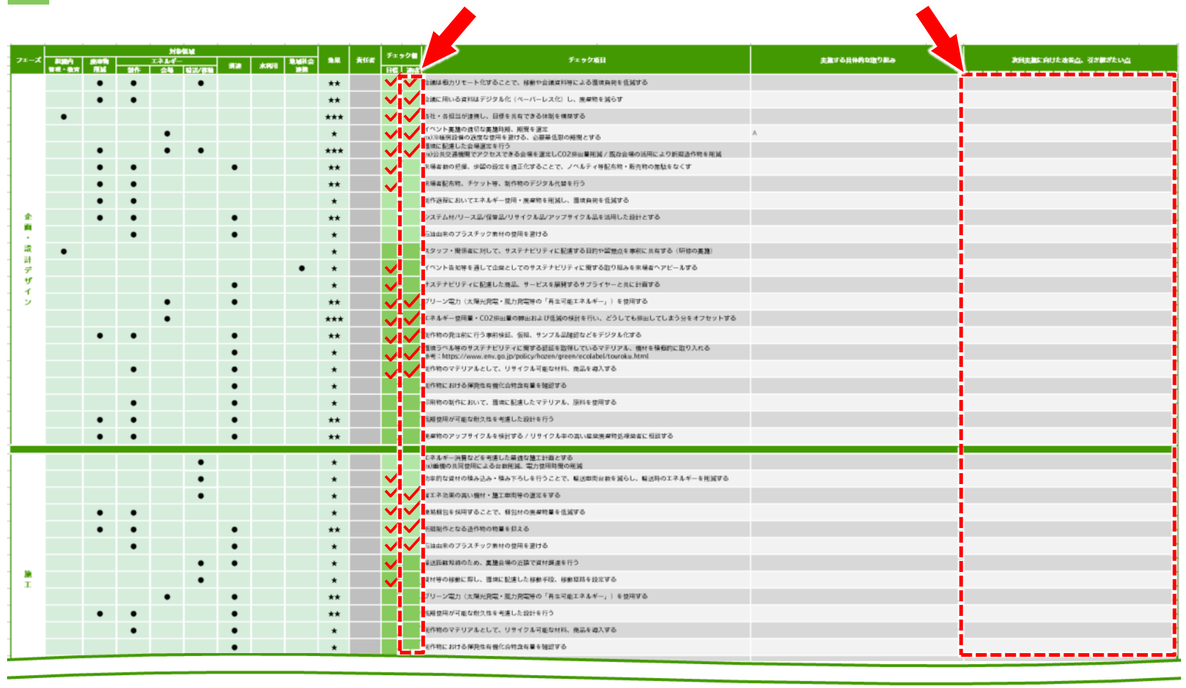
はい！今回はありがとうございました！次回もよろしくお願いいたします！

イベント主催者・出展者・協賛社

“達成できた項目にチェックを付け、次回に向けた改善点を検討”

・・・　実施の難易度が低く、努力し続けることで達成できる項目

・・・　実施の難易度が高く、他社や専門業者の協力も得て達成できる項目



フェーズ	対象領域									指標	責任者	チェック欄	チェック項目	実施する具体的な取り組み	次回実施に向けた改善点、引き継がれる点
	開催内容・運営	参加者用品	エネルギー 制作	エネルギー 会場	エネルギー 輸送/宿泊	廃棄	水利用	各領域の連携				実施 / 見直し			
企画・設計デザイン		●	●		●					★★		✓ / ✓	議論は極力リモートで行うことで、移動や会議資料等による環境負荷を低減する		
		●	●							★★		✓ / ✓	議論に用いる資料はデジタル化（ペーパーレス化）し、廃棄物を減らす		
	●									★★★		✓ / ✓	会社・各部署が連携し、目標を共有できる体制を構築する		
				●						★		✓ / ✓	イベント実施の適切な実施時期、期間を選定	A	
		●		●	●					★★★		✓ / ✓	既存施設等の改修や設備を避ける、必要最低限の規模とする 環境に配慮した会場選定を行う		
		●	●			●				★★		✓ /	公共交通機関でアクセスできる会場を選定しCO2排出量削減／既存会場の活用により新規造作物を削減		
		●	●							★★		✓ /	来場者の把握、歩留の設定を適正化することで、ノベルティ等配布物・販売物の無駄をなくす		
		●	●							★			来場者配布物、チケット等、製作物のデジタル化を行う		
		●	●			●				★★			制作過程において エネルギー使用・廃棄物を削減し、環境負荷を低減する		
			●			●				★			システム材/リース品/保管品/リサイクル品/アップサイクル品を活用した設計とする		
	●									★			油由来のプラスチック素材の使用を避ける		
								●		★		✓ / ✓	スタッフ・関係者に対して、サステナビリティに配慮する目的や認識点を事前に共有する（研修の実施）		
				●		●				★		✓ / ✓	イベント各知等を通じて企業としてのサステナビリティに関する取り組みを来場者へアピールする		
										★		✓ / ✓	サステナビリティに配慮した商品、サービスを展開するサプライヤーと共に計画する		
						●				★		✓ / ✓	グリーン電力（太陽光発電・風力発電等の「再生可能エネルギー」）を使用する		
				●		●				★★		✓ / ✓	エネルギー使用量・CO2排出量の排出および低減の検討を行い、どうしても排出してしまう分をオフセットする		
				●						★★★		✓ / ✓	制作物の発注前に行う事前検証、仮組、サンプル試験試作などをデジタル化する		
		●	●			●				★★		✓ / ✓	環境ラベル等のサステナビリティに関する認証を取得しているマテリアル、機材を積極的に取り入れる 参考：https://www.env.go.jp/policy/hozen/green-kyodai/toiawase.html		
						●				★		✓ / ✓	制作物のマテリアルとして、リサイクル可能な材料、商品を導入する		
				●		●				★			制作物における保険性有機化合物含有量を確認する		
						●				★			展示物の製作において、環境に配慮したマテリアル、塗料を使用する		
			●			●				★			再利用が可能な耐久性を考慮した設計を行う		
		●	●			●				★★			廃棄物のアップサイクルを検討する／リサイクル率の高い廃棄物処理業者に相談する		
		●	●			●				★★					
施工					●					★			エネルギー消費などを考慮した構造な施工計画とする AI機器の共同使用による台数削減、電力使用時間の削減		
					●					★		✓ / ✓	効率的な資材の積み込み・積み下ろしを行うことで、輸送車両台数を減らし、輸送時のエネルギーを削減する		
					●					★		✓ / ✓	エネ効率の高い機材・施工車両等の選定をする		
		●	●							★		✓ / ✓	廃棄物を抑制することで、廃棄材の廃棄物量を低減する		
		●	●			●				★★		✓ / ✓	現場作となる造作物の物量を収える		
			●			●				★		✓ / ✓	油由来のプラスチック素材の使用を避ける		
					●	●				★		✓ /	輸送距離短縮のため、集積会場の近隣で資材調達を行う		
					●					★		✓ /	資材等の移動に際し、環境に配慮した移動手段、移動経路を設定する		
				●		●				★★			グリーン電力（太陽光発電・風力発電等の「再生可能エネルギー」）を使用する		
		●	●			●				★★			再利用が可能な耐久性を考慮した設計を行う		
			●			●				★			制作物のマテリアルとして、リサイクル可能な材料、商品を導入する		
						●				★			制作物における保険性有機化合物含有量を確認する		

Sustainable Event Guideline

Chapter 4 サステナビリティに配慮したイベント（DEI編）

イベントにおけるDEI

みんなが楽しめるイベントの実現

イベントには、来場者やスタッフなど様々な人々が関係します。特に来場者視点では（一部スタッフ含）、「みんな」が楽しく参加でき、安全で快適に過ごせるようなイベントにする必要があります。そのためには、企画構想の段階から、**『誰も取り残されない』ということを念頭に、来場者の特性を理解し、環境を整備し、安全な運営体制を構築することが必要**です。

「みんな」の中には、障がいのある人や高齢の人、外国にルーツのある人など、外見から認識できる場合だけではなく、外からは分からない障がいがあったり、心配事を抱えている人もいます。

「みんな」が尊重され、公平な条件で参加できるようにするために、幅広い視点を持って企画をスタートしていきましょう。

イベントにおけるDEI

制作フェーズごとに留意すべきカテゴリー

● 企画・デザイン・設計フェーズ ●

企画構想
会場選定・利用計画
広報計画
チケット購入
会場アクセス
ホスピタリティ計画

● 施工フェーズ ●

会場整備
コミュニケーション

● 運営・進行フェーズ ●

アクセス案内（誘導・移動手段）
イベント運営（スタッフ教育・情報保障等）

計画途中で「みんな」が楽しめるイベントに切り替えることは、時間も、お金も、労力もかかります。
初期段階から「みんな」が楽しめるイベントの実現に向けて準備を進めることが大切です。

さらに、**制作の各フェーズにおいて留意すべきポイントに配慮する**ことで、誰も取り残されない、「みんな」が楽しめるイベントを実現することができます。

本ガイドラインは、　「みんな」が楽しめるイベントを実現するためのチェックリストとしてご活用ください。

イベントにおけるDEI

配慮すべき領域や取り組み例

【アクセシビリティ】来場者の特性を理解して、みんなが快適に過ごせるイベント会場をつくりましょう

●バリアフリートイレが設置された会場を選定する

●車いすでも乗車可能なエレベーターが設置された会場を選定する

●スロープや充分な通路幅など、「みんなが通りやすい」通路環境を整える

●受付カウンターや映像モニター、案内サインの高さを、車いすや低身長の方、子どもにも利用しやすい仕様にする

【情報保障】みんなが快適にイベントを体験できるように、来場者の特性を理解した情報提供を行いましょう

●インターネットだけでなく、新聞、チラシやポスターなど様々な媒体で告知する

●日本語ネイティブでない方向けに、多言語対応(日英併記等)を行う

●弱視や多様な色覚の方、高齢者に配慮した案内サインを設計する

●配布物については、読み上げ機能、拡大文字、点字対応を行う

【オペレーション】来場者が快適で安全に過ごせるための運営計画を行い、実行しましょう

●全てのスタッフが多様性（特に様々な障がいや不便さ）を理解し、配慮の仕方（「気付く力」「行動力」「対話力」）を身に付けられるように、事前教育を行う

●受付・誘導スタッフは、筆談用具・コミュニケーション支援ツール等を常備する

●食事を提供する際は、対象者の宗教や国、文化、個人による食事制限の有無や種類を確認し、それに合わせた食事メニューを手配する

サステナビリティに配慮したイベントのためのチェックリスト（DEI編）

みんなのイベントをつくるためのチェックリスト

サステナビリティに配慮したイベントのためのチェックリスト（DEI編）はこちらのリンクより、ご利用いただけます。

チェックリストの利用方法を
記載しています

［利用方法］
①：イベント企画開始時に、実施を目指すチェック項目を選定し、「目標」欄にチェックを付ける。
②：①でチェックを付けた項目を目標とし、「実施する具体的な取り組み」欄に実施予定の内容を記載。制作フェーズへ進む。
③：イベント終了時に、達成できたチェック項目については、「達成」欄にチェックを入れ、次回に向けた改善点等を「次回実施に向けた改善点、引き継ぎたい点」欄に記載する。
④：次回のイベント実施時には、チェック欄と「実施する具体的な取り組み」・「次回実施に向けた改善点、引き継ぎたい点」を基にあらたに実施を目指すチェック項目の見直しを行う。

具体的な取り組みを
記入していただく欄になります

事前に対象とする項目を選定し
「目標」欄にチェックを入れます
事後、クリアできた項目には
「達成」欄にチェックを入れます

イベントの制作段階を記載しています

各項目の対象となる方を記載しています

DEIに配慮したイベントにするために
実施すべき項目を記載しています

次回の実施に向けた改善点、
引継ぎ事項を
記入していただく欄になります

フェーズ	肢体障がい	視覚障がい	聴覚障がい	内部障がい	知的障がい	精神・発達障がい	低身長	高齢者	妊婦	幼児・乳児	LGBTQ＋	外国人・文化	チェック欄 目標	チェック欄 達成	チェック項目	実施する具体的な取り組み（※イベントの内容によっては、より強い配慮を求められることもあります。）	次回実施に向けた改善点、引き継ぎたい点
企画・デザ															誰も取り残されないイベントの企画を検討する		
															「みんな」が利用しやすい会場		
	●							●	●	●					「みんな」が移動できる動線を計画する		
	●	●		●			●	●	●	●	●				「みんな」が利用可能なトイレを備える		
	●	●	●			●	●	●		●					多様なニーズに合わせた座席を設計する		
															「みんな」にイベント情報を知ってもらう広報計画		
		●	●		●	●		●		●		●			「みんな」が情報を取得しやすい方法で、告知する		
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			「みんな」が楽しむために必要な情報を明記する		
		●	●		●	●		●		●		●			読み手に配慮した、情報保障を行う		
															「みんな」が応募、購入、申し込みできる仕組み		

サステナビリティに配慮したイベントのためのチェックリスト（DEI編）

チェックリスト活用フロー① 検討項目の洗い出し

サンプルケース

今考えているイベントで、DEIに配慮した取り組みを
行いたいのですが、何に気を付けたらいいのでしょうか？

イベント主催者・出展者・協賛社

来場者はもちろん、関係者も含めた誰もが取り残されず、
安心して参加できるというのは一つの指標になるでしょう。

イベント企画者・制作者

そうですね。
ただ、具体的には何から手を付ければいいのでしょうか？

イベント主催者・出展者・協賛社

今は企画・デザイン・設計フェーズだと思いますので、
こちらのチェックリストを使って、どのような項目で
何に配慮すべきか、確認していきましょう。

イベント企画者・制作者

なるほど。今回のイベントですと車いすで移動できる
動線設計は必要ですね。

イベント主催者・出展者・協賛社

それでは、「みんな」が移動できる動線を
計画していきましょう。

イベント企画者・制作者

“取り組むべき項目をコミュニケーションをとりながらチェック”

フェーズ	肢体障がい	視覚障がい	聴覚障がい	内部障がい	知的障がい	精神・発達障がい	低身長	高齢者	妊婦	幼児・乳児	LGBTQ+	外国人・文化	チェック目標	チェック項目	実施する具体的な取り組み（※イベントの内容によっては、より強い配慮を
企画・デザイン・設計														「みんな」が楽しめるイベントの企画構想	
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	✓	誰も取り残されないイベントの企画を検討する	
														「みんな」が利用しやすい会場	
	●							●	●	●			✓	「みんな」が移動できる動線を計画する	
	●	●		●			●	●	●	●	●		✓	「みんな」が利用可能なトイレを備える	
	●	●	●			●	●	●		●			✓	多様なニーズに合わせた座席を設計する	
														「みんな」にイベント情報を知ってもらう広報計画	
		●	●		●	●		●		●		●	✓	「みんな」が情報を取得しやすい方法で、告知する	
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	✓	「みんな」が楽しむために必要な情報を明記する	
		●	●		●	●		●		●		●	✓	読み手に配慮した、情報保障を行う	
														「みんな」が応募、購入、申し込みできる仕組み	
	●	●	●	●	●	●	●	●		●			✓	「みんな」が購入（応募）しやすい料金設定を検討する	
	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●		✓	「みんな」に配慮した、応募フォームやアンケートなどの設問・回答項目を設定する	
	●	●	●	●			●	●	●				✓	「みんな」が購入（応募）しやすい仕組みを検討する	
		●	●					●				●	✓	「みんな」が問い合わせしやすい事務局を構築する	
														「みんな」が安全・安心に移動できる会場までのアクセス	
	●	●	●				●	●	●	●			✓	「みんな」が容易に来場できる会場までのルートを計画する	
	●							●					✓	障がい者用駐車スペースの有無及び設置場所を確かめる	

サステナビリティに配慮したイベントのためのチェックリスト（DEI編）

チェックリスト活用フロー② 具体的な取り組みの検討

“「目標」欄にチェックを付けた項目の具体的な取り組み内容を決定してリストに記載”

サンプルケース

取り組むべき項目は決まりましたが、
実際に、肢体障がい者やご高齢の方などの参加をしやすくするためには、具体的にどう取り組めばいいのでしょうか？

イベント主催者・出展者・協賛社

まず会場選定の際に、エレベーターの有無の確認が必要です。車いすでも乗車可能な広さの確保や、後方確認用の鏡があるかなども現場確認していきましょう。

イベント企画者・制作者

ハード面での検討事項は理解しましたが、
他にもソフト面で対応できることはあるのでしょうか？

イベント主催者・出展者・協賛社

スタッフ教育も必要ですね。移動にサポートが必要な方はスタッフが率先してお声がけを行うなどの配慮も検討していきましょう。

イベント企画者・制作者

フェーズ	肢体障がい	視覚障がい	聴覚障がい	内部障がい	知的障がい	精神・発達障がい	低身長	高齢者	妊婦	幼児・乳児	LGBTQ+	外国人・文化	チェック欄 目標	チェック欄 達成	チェック項目	実施する具体的な取り組み（当イベントの内容に上で付け加えた事柄）
企画・デザイン・設計															「みんな」が楽しめるイベントの企画構想	
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	✓		誰も取り残されないイベントの企画を検討する	
															「みんな」が利用しやすい会場	
	●							●	●	●			✓		「みんな」が移動できる動線を計画する	
	●	●		●			●	●	●	●	●		✓		「みんな」が利用可能なトイレを備える	
	●	●	●			●	●	●		●			✓		多様なニーズに合わせた座席を設計する	
													✓		「みんな」にイベント情報を知ってもらう広報計画	
		●	●		●	●		●		●		●			「みんな」が情報を取得しやすい方法で、告知する	
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	✓		「みんな」が楽しむために必要な情報を明記する	
		●	●		●	●		●		●		●	✓		読み手に配慮した、情報保障を行う	
													✓		「みんな」が応募、購入、申し込みできる仕組み	
	●	●	●	●	●	●	●	●		●			✓		「みんな」が購入（応募）しやすい料金設定を検討する	
	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●		✓		「みんな」に配慮した、応募フォームやアンケートなどの設問・回答項目を設定する	
	●	●	●	●			●	●	●				✓		「みんな」が購入（応募）しやすい仕組みを検討する	
		●	●					●				●	✓		「みんな」が問い合わせしやすい事務局を構築する	
															「みんな」が安全・安心に移動できる会場までのアクセス	
	●	●	●				●	●	●	●			✓		「みんな」が容易に来場できる会場までのルートを計画する	
	●							●					✓		障がい者用駐車スペースの有無及び設置場所を確かめる	

サステナビリティに配慮したイベントのためのチェックリスト（DEI編）

チェックリスト活用フロー③ 実施後の振り返り

サンプルケース

イベントお疲れ様でした！今回のイベントでは初めてDEIに配慮した取り組みができ、アンケートでも非常に良い結果となりました。

イベント主催者・出展者・協賛社

こちらこそありがとうございました！チェックリストをもとに今回の内容を忘れないうちに振り返りましょう。

イベント企画者・制作者

目標はかなり達成できたのですが、スケジュール面や、予算面での改善余地はありましたね。

イベント主催者・出展者・協賛社

そうですね。次回はもう少し早めから動き出して、スケジュールとともに予算も確保しながら進めましょう。

イベント企画者・制作者

はい！今回はありがとうございました！次回もよろしくお願いいたします！

イベント主催者・出展者・協賛社

“達成できた項目にチェックを付け、次回に向けた改善点を検討”

フェーズ	肢体障がい	視覚障がい	聴覚障がい	内部障がい	知的障がい	精神・発達障がい	低身長	高齢者	妊婦	授乳・乳児	LGBTQ＋	外国人・文化	チェック欄 目標	チェック欄 達成	チェック項目	実施する具体的な取り組み（※イベントの内容によっては、より強い配慮を求められることもあります。）	次回実施に向けた改善点、引き継ぎたい点
企画・デザイン・設計															「みんな」が楽しめるイベントの企画構想		
	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	✓		誰も取り残されないイベントの企画を検討する		
															「みんな」が利用しやすい会場		
	•							•	•	•			✓		「みんな」が移動できる動線を計画する		
	•	•		•			•	•	•	•	•		✓		「みんな」が利用可能なトイレを備える		
	•	•	•			•	•	•		•			✓		多様なニーズに合わせた座席を設計する		
															「みんな」にイベント情報を知ってもらう広報計画		
		•	•		•	•		•		•		•	✓		「みんな」が情報を取得しやすい方法で、告知する		
	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	✓		「みんな」が楽しむために必要な情報を明記する		
		•	•		•	•		•		•		•	✓		手に配慮した、情報保障を行う		
															「みんな」が応募、購入、申し込みできる仕組み		
	•	•	•	•	•	•	•	•		•			✓		「みんな」が購入（応募）しやすい料金設定を検討する		
	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•		✓		「みんな」に配慮した、応募フォームやアンケートなどの設問・回答項目を設定する		
	•	•	•	•			•	•	•				✓		「みんな」が購入（応募）しやすい仕組みを検討する		
		•	•					•				•	✓		「みんな」が問い合わせしやすい事務局を構築する		
													✓		「みんな」が安全・安心に移動できる会場までのアクセス		
	•	•	•				•	•	•	•			✓		「みんな」が容易に来場できる会場までのルートを計画する		
	•							•					✓		者が使い易用駐車スペースの有無及び設置場所を確かめる		

Sustainable Event Guideline

Appendix

用語の解説①

■ISO20121

2012年6月に発行されたイベントの持続可能性に関するマネジメントシステムの国際標準規格。
イベント業界でサステナビリティに取り組んでいくため、環境・社会・経済の側面からの影響を管理、サポートいくためのマネジメントシステムです。
参考：ISO 20121 Sustainable events　https://www.iso.org/iso-20121-sustainable-events.html

■ESG

ESGとは、Environment（環境）、Social（社会）、Governance（企業統治）を考慮した投資活動や経営・事業活動を指します。
ESGは投資活動から始まった概念であり、ESG投資では、一般に企業の財務情報に加えて環境及び社会への配慮、企業統治の向上等の情報を加味し、
中長期的なリターンが目指されるなどしていましたが、昨今は、企業経営においてもESGに配慮する傾向があり、ESGの考え方は、
投資に限定されるものではなくなっています。
参考：内閣府　ESGの概要　https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/tyosa/r02kokusai/h2_02_01.html

■エシカル調達・エシカル認証(エシカルマーク)

「エシカル」は、直訳すると「倫理的な」という意味です。エシカル調達とは人々や地域、社会、そして環境に配慮された商品やサービスを選択して調達・消費することです。
エシカル認証(エシカルマーク)は、エシカルな認証基準を満たしていることで商品に付けられる認証マークのことで、調達や消費の際に基準となってくれるものです。
例）地球環境保全に関するエシカルマーク：FSC®認証/レインフォレスト・アライアンス認証/エコマーク
　　魚や動物に関するエシカルマーク：海のエコラベル¦MSC認証/Leaping Bunny/ヴィーガン認証
　　オーガニック認証のエシカルマーク：NATRUE認証/ECO CERT認証/GOTS認証
　　労働環境や途上国支援のエシカルマーク：国際フェアトレード認証/WFTO認証 など
参考：環境省「環境ラベル等データベース」https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/ecolabel/touroku.html

用語の解説②

■SDGsウォッシュ

実態のないエコ活動で消費者を誤解させる「グリーンウォッシュ」が元になっている言葉で、実態が伴っていないSDGsへの貢献を発信する企業などの組織活動を指します。
SDGsに貢献する意欲があっても、正しい理解や取り組みができていなかったり、また抽象的な表現を使ってしまうことで、結果的に生活者を欺くことに繋がってしまい、
批判を浴びるケースがあります。

グリーンウォッシュと、そこから派生したSDGsウォッシュは、

① 実態がないのに環境（SDGs）に配慮しているように見せかける
② 実態以上に環境（SDGs）に配慮しているように見せかける
③ 不都合な事実を伝えず、良い情報のみを伝達している

というネガティブな意味合いの言葉として使われています。

whitewash …… ごまかす、粉飾する、うわべを飾る、という意味。
部分的に強調して事実を伝える、
都合の良い解釈をする、といったニュアンス。

派生

greenwash …… 環境問題に関連したwhitewash

bluewash …… 国連のお墨付きがあるかのように見せかけるwhitewash

さらに派生

SDGs wash …… SDGsに関連したwhitewash

Rainbow wash …… SDGsに関連したwhitewash （SDGsの17色から）
※LGBTQに関連したwhitewashを指す場合も

参考：電通　サステナビリティ・コミュニケーションガイド　https://www.dentsu.co.jp/sustainability/sdgs_action/pdf/sustainability_communication_guide.pdf

■カーボン・オフセット

日常生活や経済活動において避けることができないCO_2等の温室効果ガスの排出について、まずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、
どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方です。
引用：環境省　https://www.env.go.jp/earth/ondanka/mechanism/carbon_offset.html

用語の解説③

■カーボンニュートラル

「CO_2排出量から吸収量と除去量を差し引いた合計をゼロにする」ことです。世界では、気候変動の深刻化を背景に多くの国が2050年までにカーボンニュートラルを実現することを約束しており、日本政府も2020年に2050年までのカーボンニュートラルの実現を宣言しました。

参考：環境省 脱炭素ポータル　https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/about/

■再生可能エネルギー

「太陽光、風力その他非化石エネルギー源のうち、エネルギー源として永続的に利用することができると認められるものとして政令で定めるもの」と定義されており、政令において、太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱その他の自然界に存する熱・バイオマスが定められています。
これらのエネルギーは、温室効果ガスを排出せず、国内で生産できることから、エネルギー安全保障にも寄与できる有望かつ多様で、重要な低炭素の国産エネルギー源です。

参考：経済産業省 資源エネルギー庁　https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/renewable/outline/index.html

■Ｊ-クレジット制度

省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの活用によるCO_2等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO_2等の吸収量を、クレジットとして国が認証する制度です。
創出されたクレジットを活用することにより、低炭素投資を促進し、日本の温室効果ガス排出削減量の拡大につなげていく狙いがあります。

参考：経済産業省　https://www.meti.go.jp/policy/energy_environment/kankyou_keizai/japancredit/index.html

■温室効果ガス(GHG)

太陽の光は、地球の大気を通過し、地表面を暖めます。暖まった地表面は、熱を赤外線として宇宙空間へ放射しますが、大気がその熱の一部を吸収します。
これは、大気中に熱（赤外線）を吸収する性質を持つガスが存在するためです。このような性質を持つガスを「温室効果ガス（Greenhouse Gas）」と呼びます。
大気中の温室効果ガスが増えると、温室効果が強くなり、より地表付近の気温が上がり、地球温暖化につながります。
温室効果ガスには様々なものがありますが、人間の活動によって増加した主な温室効果ガスには、二酸化炭素（CO_2）やメタン（CH_4）、一酸化二窒素（N_2O）、フロンガスがあります。なお、温室効果の大きさは気体によって異なり、例えばメタンは二酸化炭素の25倍、一酸化二窒素は298倍の温室効果があります。

参考：環境省　https://www.env.go.jp/earth/ondanka/ghg-mrv/overview.html

用語の解説④

■3R(5R)

リデュース(Reduce)：製品をつくる時に使う資源の量を少なくすることや廃棄物の発生を少なくすること。
リユース(Reuse)：モノを捨てずに繰り返し使うこと。
リサイクル(Recycle)：廃棄物等を原材料や資源として再利用すること。※リサイクルについての詳しい分類はP.39を参照

これまでモノづくりは、リニア・エコノミー、リサイクリング・エコノミーなど、廃棄を前提としたビジネスモデルが定着していましたが、
循環型モデル(サーキュラー・エコノミー)では、上記「3R」に加えて、さらに２つの取り組みが必要になります。
リフューズ(Refuse)：廃棄のもとになるものを買わない/もらわないようにすること。容器の廃棄が出ないよう詰め替えのある商品を選んだり、
一時的に使うだけのものはシェアやレンタルサービスを活用するなど、生活者の消費行動が前提条件となります。
リペア(Repair)：修理をしながらモノを長く使い続けること。予め修理可能な製品設計を考え、アフターサービスを用意しておくなど、生産者側の対応が欠かせません。
参考：電通　課題解決マーケティング情報サイト[ドゥ・ソリューションズ]　～循環する経済ってどういうこと？「サーキュラー･エコノミー」の基本を解説～
https://www.d-sol.jp/blog/guide-for-circular-economy

■サーキュラー・エコノミー

直訳すると「循環型経済」。国際的なサーキュラー・エコノミーの推進機関であるエレン・マッカーサー財団では、その3大原則を下記のようにまとめています。
＜サーキュラー・エコノミー3原則＞

- Design out waste and pollution（廃棄物や汚染をなくす）
- Keep products and materials in use（製品やマテリアルを使い続ける）
- Regenerate natural systu （自然のシステムを再生する）

参考：エレン・マッカーサー財団HP　https://ellenmacarthurfoundation.org/topics/circular-economy-introduction/overview

廃棄物をなくし再利用をする点では、リユースやリデュース、リサイクル（いわゆる「３R」）と同様の考え方ですが、
サーキュラーエコノミーの場合には、廃棄を前提としてないことが定義に含まれます。
参考：電通　課題解決マーケティング情報サイト[ドゥ・ソリューションズ]　～循環する経済ってどういうこと？「サーキュラー･エコノミー」の基本を解説～
https://www.d-sol.jp/blog/guide-for-circular-economy

用語の解説⑤

■サプライチェーン排出量（Scope1～3）

自社内における直接的な排出だけでなく、自社事業に伴う間接的な排出も対象とし、事業活動に関係するあらゆる排出を合計した排出量を指します。
つまり、原材料調達・製造・物流・販売・廃棄など、一連の流れ全体から発生する温室効果ガス(GHG)排出量のことです。

サプライチェーン排出量 ＝ Scope1排出量 + Scope2排出量 + Scope3排出量
Scope1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)
Scope2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
Scope3：Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)　※15のカテゴリに分類します
1：購入した製品・サービス/2：資本財/3：Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動/4：輸送、配送（上流）
5：事業から出る廃棄物/6：出張/7：雇用者の通勤/8：リース資産（上流）/9：輸送、配送（下流）
10：販売した製品の加工/11：販売した製品の使用/12：販売した製品の廃棄/13：リース資産（下流）
14：フランチャイズ/15：投資/その他（任意）

参考：環境省／経済産業省 グリーン・バリューチェーンプラットフォーム　https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/estimate.html#no00

■ライフサイクルアセスメント（LCA）

ライフサイクルアセスメント（LCA：Life Cycle Assessment）とは、
製品やサービスのライフサイクル全体（資源採取―原料生産―製品生産―流通・消費―廃棄・リサイクル）または、
その特定段階における環境負荷を定量的に評価する手法です。LCAについては、ISO（国際標準化機構）による環境マネジメントの国際規格の中で、
ISO規格が作成されており、こうした流れを受けて、日本の企業でもCSR報告書などでLCAが取り入れられています。

参考：国立環境研究所　https://tenbou.nies.go.jp/science/description/detail.php?id=57

用語の解説⑥

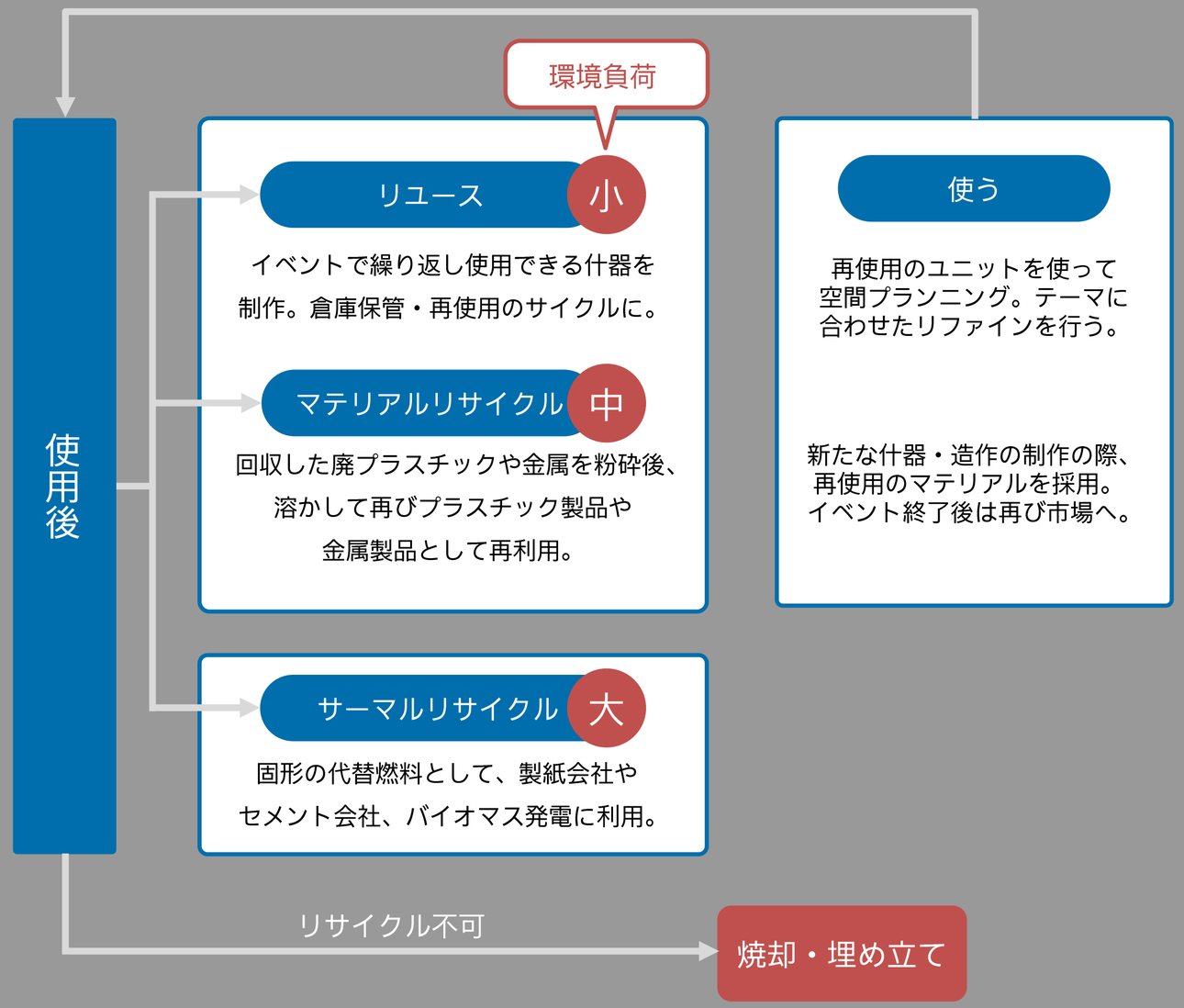
■廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）

廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）第３条第１項において、事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければならないとされており、また、同法第11条第１項において、事業者は、その産業廃棄物を自ら処理しなければならないとされています（排出事業者責任）。

廃棄物処理業者に産業廃棄物の処理を委託した場合であっても、排出事業者に処理責任があることに変わりはありません。
廃棄物処理法第12条第７項では、事業者は、産業廃棄物の最終処分が終了するまでの一連の処理が適正に行われるために必要な措置を講ずるよう努めなければならないこととされています。不適正な処理を行う廃棄物処理業者に委託していたことが明らかになれば、排出事業者も廃棄物処理法の措置命令の対象になる可能性があるとともに、社名等が公表され、コンプライアンスを十分に果たしていない事業者として社会的な評価を落としかねないリスクを十分に認識する必要があります。

参考：環境省：https://www.env.go.jp/recycle/waste/haisyutsu.html

廃棄物処理において適切なリサイクルを実現するために



●リサイクル手法の区別（左図参照）

リユース・マテリアルリサイクル・サーマルリサイクルという手法があり、
それぞれのもたらす環境負荷は左図のように異なることを理解しましょう。
環境負荷の小さい手法を優先して採用することが望ましいと言えます。

●廃棄物の処理フローのトレース

廃棄物処理の委託業者が、廃プラスチック、木くず、金属くずなどの種類に対して環境負荷の少ないリサイクル手法の幅広い処理フローを持っているか確認しましょう。事前に委託処理業者との打ち合わせをおこない、リサイクル処理の状況を現地確認することも必要です。環境負荷の少ないリサイクル手法の幅が狭い場合、分別しても結局一緒にされ、焼却や埋め立てになるリスクがあります。

●適切な数値指標設定・開示

廃棄物処理における数値指標においては、「リサイクル率」という大枠ではなく「リユース率」「マテリアルリサイクル率」「サーマルリサイクル率」というように手法の内訳を明確に区別することが重要です。
世界的には、サーマルリサイクルはリサイクル率に含めない場合も多く、グリーンウォッシュ回避のためにも留意が必要です。

用語の解説⑦

■DEI（読み方：ディー・イー・アイ）

多様性、公平性、包摂性をまとめて表す言葉。特に、性のあり方や国籍、障害の有無、文化、年齢などの属性を優劣ではなく
個性として捉え、不平等の是正はもちろん、それを起点としてあらゆる活動において成長や変化を推進する考え方を指します。
ダイバーシティ(Diversity)：年齢、性別、民族、宗教、疾病、性自認、性的指向、教育、国籍等の違いを尊重すること
エクイティ(Equity)：情報、機会、リソースへのアクセスを、全ての人に公平に保証しようとするもの
インクルージョン(Inclusion)：どのような個人や集団であっても、歓迎され、尊重され、支援され、評価され、参加できるような環境を作ること

参考：アライアクションガイド’23　編集/電通ダイバーシティ・ラボ　https://cococolor.jp/wp-content/uploads/2023/05/AllyActionGuide_2023.pdf

■LGBTQ＋（読み方：エルジービーティーキュープラス）

性的少数者を表す総称のひとつ。レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニング※1／クイア※2の頭文字に加え、
それ以外の多様な性のあり方を「+」の記号に込めて、組み合わされています。
この言葉は、それぞれが置かれた立場の違いを尊重し、ともに困難を乗り越えていこうという前向きな連帯を表しています。

※1 性自認や性的指向が定まっていない、もしくは意図的に定めていない人や状態のこと。
※2 異性愛や男性／女性の 2 択を規範とする社会に違和感を覚える性のあり方。

引用：アライアクションガイド’23　編集/電通ダイバーシティ・ラボ　https://cococolor.jp/wp-content/uploads/2023/05/AllyActionGuide_2023.pdf

用語の解説⑧

■アクセシビリティ

障がいの有無に関わらず、誰もが楽に来場し、移動できる案内・設備・仕組みのこと。
空間的・物理的なことが便利で使いやすいことや、情報面の理解のしやすさも重要です。
「イベントのアクセシビリティ」には、イベントがあることの広報や、イベント会場までの案内、会場や施設などのハード面に関する施工、
案内版など情報を伝えるためのサインといった様々なアクセシビリティ（＝イベントに近づくこと）があります。

参考：一般社団法人日本イベント産業振興協会　ユニバーサルイベント検定公式テキスト

■情報保障・情報アクセシビリティ

年齢や障がいの有無等に関係なく、誰でも必要とする情報に簡単にたどり着け、利用できることを指します。
令和４年５月に「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」が成立・施行され、
障がい者による情報の取得利用・意思疎通に係る施策を推進するに当たり、以下の4つが基本理念として定められています。

①障がいの種類・程度に応じた手段を選択できるようにすること
②日常生活・社会生活の地域に関わらず等しく情報取得等ができるようにすること
③障がい者でない人と同じ内容の情報を、同一時点で取得できるようにすること
④高度情報通信ネットワークの利用・情報通信技術の活用を行うこと

参考：東京都福祉保健局 情報提供の方法（情報保障）　https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/tokyoheart/jouhou/index.html

用語の解説⑨

■バリアフリートイレ

ユニバーサルデザインはあらかじめ、障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方です。

参考：総務省　バリアフリーとユニバーサルデザイン　https://www.soumu.go.jp/main_content/000546194.pdf

多様なニーズに配慮し、全ての人がストレスなく利用できるよう、トイレ全体でユニバーサルデザインを進めることが求められています。

例）車いす使用者対応トイレ：車いすを回転できる広いスペース、便器に移乗するための手すりなどの設備

乳幼児用設備：ベビーチェア、おむつ交換台（ベビーベッド）など乳幼児を連れた人が使用するための設備

オストメイト用設備：主にオストメイトが、パウチ（排泄物をためておく袋）や汚れた物、しびん等を洗浄するために使用する汚物流し（洗浄装置･水栓を含む）

介助用ベッド：おむつ交換台が使えない年齢の子どもから大人までの様々な人が、ベッド上での着替えやおむつ交換、自己導尿等による排泄のために使用することが多い大型のベッド

男女共用トイレ：知的・発達障がい者や認知症高齢者等の異性による介助・同伴が必要な人、トランスジェンダーなど男女別のトイレを利用しにくい人からのニーズに応えるための男女共用利用が可能なトイレ

参考：東京都　多様な利用者のニーズに配慮したユニバーサルデザインのトイレづくりハンドブック　https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kiban/machizukuri/toilet_handbook.files/toilet_handbook_1.pdf

○監修

環境編：伊坪徳宏（早稲田大学 理工学術院 教授）
北村祐介（早稲田大学 理工学術院 伊坪研究室 招聘研究員）
DEI編：内山早苗（株式会社UDジャパン 代表取締役）
初瀬勇輔（株式会社ユニバーサルスタイル 代表取締役）

○制作・編集

株式会社電通ライブ

○協力

環境編：dentsu Japan　サステナビリティ推進オフィス
電通 Team SDGs
DEI編：株式会社 電通　パブリック・アカウント・センター
電通ダイバーシティ・ラボ

○お問合せ

株式会社電通ライブ　kouhou@dentsulive.co.jp
https://www.dentsulive.co.jp